第3種郵便物認可

経済KAGAWA

メッセージ Message

香川のリーダーたち

宗 由貴 3

先天的な病気が理解されず

幼いころに壁にぶつかって挫折を経験するのは、ある意味必要ではないだろうか。また、悪いことをした時などに本気で叱られることも。そんな経験を積み重ねないと、人生を生き抜く免疫力は高まらないと思う。

■ ■

私の少女時代もコンプレックスはあった。父が四国の人間でなかったことによる「よそ者」扱いもそうだが、最も悩まされたのは膝を痛めて学校生活に支障をきたしたことだ。

それは小学4年の時、友達数人と「馬跳び」遊びをしていたときのこと。「馬」の役だった私は跳んでくる友達を待っていたが、なかなか来ないので膝を伸ばした。その瞬間、私の背中に友達が乗っかってきた。

膝に激痛が走ったと思ったら目の前が真っ暗になり、気がついたら保健室のベッドの上だった。何が起こったのか、さっぱり分からなかった。左膝が猛烈に痛く、額には脂汗が噴き出していた。後に分かったことだが、膝蓋骨と呼ばれる膝の皿が外れていたのだ。

当時は整形外科などなく、かかった病院では「体の成長に膝が追いついていないのだろう」と診断された。

以来、左膝をかばっていたからか右膝も痛め、年2、3回は同じような症状に見舞われた。

実は、私は先天的に全身の靱帯が普通の人よりもかなり緩く、膝の皿だけでなく全ての関節が外れやすい体質だった。これは30歳ごろになって精密検査を受け、初めて判明したことだった。

小学、中学時代は通学途中にも膝の皿が外れることがあった。そんなときは近所の人が持ってきてくれた椅子に座り、親が迎えに来てくれるのを待った。友達に見られるのが恥ずかしく、ずっとうつむいていた。

■ ■

そんな私をからかう子もいたが、私は気にしないよう努めた。ただ、中学に進学して先生に理解されなかったのはつらかった。

体育の授業を受けられず見学していると、女性教師に「宗さん、あんたはいつも休んでるね」と薄ら笑いを浮かべながら言われた。体質を説明しても信じてもらえなかった。

ある日、バスケットボールの授業の時だった。私は無理してでもやってやるとむきになり、コートに出て走り始めた。すると案の定、膝の皿が外れ、床に倒れこんでしまった。この時は3日間学校に行けなかった。

当時、体操の床運動の選手になる夢をよく見た。深層心理で、自由に飛び跳ねられる体操選手に憧れていたのだろう。

そんなころ、父は悩む私に対し「運動はできないかもしれないが、ほかにできることがたくさんあるじゃないか」と言ってくれた。

普段の私をよく見ていてくれる父の言葉はありがたかった。

（少林寺拳法グループ総裁）

両親とともに年始あいさつで県知事公舎に金子元知事（右から2人目）を訪ね、記念写真に納まる小学4年の宗由貴氏（中央）。左隣は父の道臣氏、左端は母の恵美子さん＝1967年

少女時代の悩み

幼いころから「いい子」と言われ、成績優秀で何のコンプレックスもなく育ってきた子どもが、ある日突然に制御不能となり、罪を犯してしまうことがある。そんな少年犯罪が起きるたび、教育の在り方が問われる。

賃金改善見込み「あり」48%

17年度県内企業

帝国データバンク調査

帝国データバンク高松支店が22日発表した正社員の賃金動向調査によると、2017年度に賃金改善の見込みが「あり」とした県内企業は48・2%だった。賃上げの理由は「労働力の定着・確保」がトップ。ただ、「未定」とする企業が3分の1を占め、同支店は「人手不足から賃上げの必要性が高まっているが、先行きの不透明感から決断できない企業も多い」としている。

調査によると、賃金改善の見込みが「あり」とした企業の割合は、09年度の28・7%を底に上昇傾向が続き、15年度に58・9%まで達したが、16年度は48・0%と7年ぶりに減少。今回は前年度比0・2ポイント増の48・2%となった。過去10年間では3番目に高い水準。

一方、改善見込み「なし」とした企業の割合は前年度比0・8ポイント増の18・4%。「未定」の割合は33・3%で、過去10年間では前年度（34・4%）に次いで2番目に高かった。

賃金改善の理由（複数回答）では「労働力の定着・確保」が85・5%と突出。以下、「自社の業績拡大」が40・0%、「同業他社の賃金動向」が25・5%、「物価動向」が12・7%と続いた。賃金改善を行わない理由（同）は、「自社の業績低迷」が57・1%で最も多かった。

調査は1月18～31日に県内に本社がある274社に実施、114社が答えた（回答率41・6%）。

県内企業の賃金改善見込み

年度	あり	なし	未定
2008	39.3	30.4	30.4
09	28.7	40.2	31.1
10	32.0	40.2	27.9
11	32.4	44.6	23.0
12	41.0	33.1	25.9
13	42.0	28.7	29.4
14	49.6	33.9	16.5
15	58.9	23.4	17.7
16	48.0	17.6	34.4
17	48.2	18.4	33.3

（単位：%）

理由トップは「労働力確保」

改正再生エネ法 ポイントを説明

高松でエネ庁

再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度を抜本的に見直す改正再生エネ特別措置法の説明会が22日、高松市サンポートのかがわ国際会議場であり、経済産業省資源エネルギー庁の担当者が制度見直しの背景や新しい制度のポイントについて解説した。

説明会は、改正法の4月1日からの施行を前に経済産業省資源エネルギー庁が

フォーカス focus 香川の優良企業

日本グレーン研究所（高松市）

工業用砥石、手作業で製造

日本グレーン研究所（高松市、太田耕司社長）は、工業用の砥石を製造する。自動車部品や電子部品など顧客が製造する品目に合わせ、オーダーメードで対応する。

製造は一つ一つが手作業で、人工の砂粒やダイヤモンドなどの原材料を押し固めて焼成する。砥石は、包丁やはさみなどの刃物や自動車部品、電子部品を作る際に部品を切削するために使われており、製造する品目の仕様や工作機械の特徴に合わせて製造する。

高松市国分寺町の本社工場のほか、綾川町に工場と営業所、埼玉県にも営業拠点を構える。取引先は関東に多く、大手メーカーとの取引もある。近年ではインドネシアなど海外にも輸出している。

讃州電気工事（高松市）

公共施設を中心に施工実績

讃州電気工事（高松市、佐藤隆男社長）は、1970年の創業以来、公共施設などの電気工事を数多く請け負い、実績を重ねてきた。

元請けとして学校や幼稚園、保育所などの教育施設、太陽光発電所などを手掛けるほか、大手ゼネコンなどによる官公庁舎、大型商業施設、病院などの設備工事も受注。県外に松山支店、新居浜営業所を構え、四国4県を事業エリアとしている。電気工事に加え、空調工事や通信工事、管工事にも対応する。

2月からは松江市の電気工事会社のフランチャイズチェーンとして「住まいのおたすけ隊」事業を開始。照明交換からオール電化まで、家庭向けの電気工事の受注拡大も目指している。

マルシマ印刷（土庄町）

地域密着でパンフなど制作